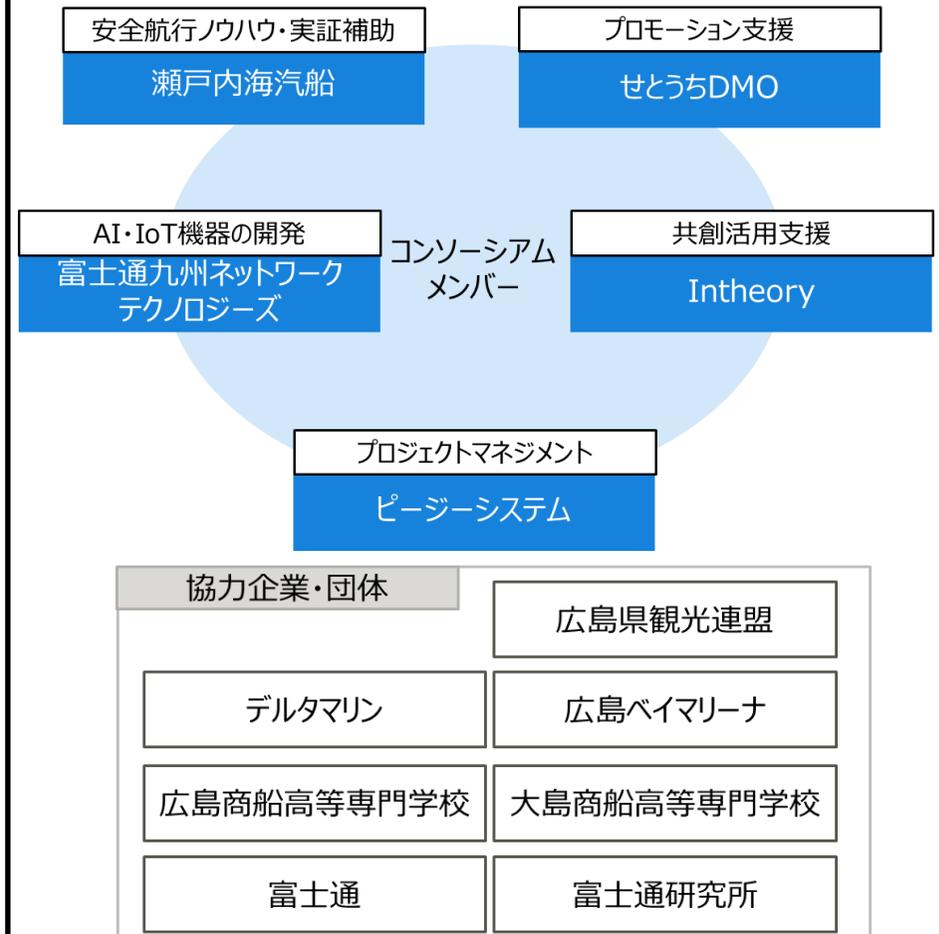


事業名:海の共創基盤～せとうちマリンプロムナード～ (代表者:ピージーシステム) (1/4)

■事業概要

- 紙、電子データ等、散在するせとうちのデータを有機的に統合し、さらにリアルタイムデータを付加したデータを用いた地域活性化のための利活用環境構築を目指す
- AIにより個々のTPOに合わせたデータ利活用ができる共創環境の実現を目指す
- 海洋クラウド(海洋版ダイナミックマップ)を構築
- 集約データ:瀬戸内の海洋交通関連データ
 - 船舶のリアルタイムな航行情報
AIS情報、スマホトラッキング情報、AIカメラ情報
 - 海上構造物情報
かき筏情報、灯浮標情報等
 - 地形情報・気象情報
 - 定期航路時刻表、観光データ等
- ユースケース
 - 推奨ルートレコメンド
 - スマホによる安全航行支援
(接近船舶警報、航路誘導)

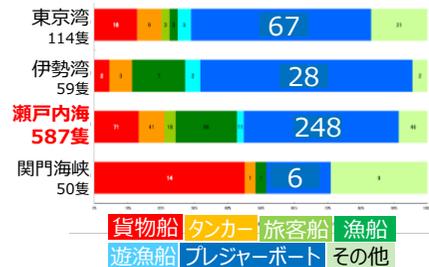
■コンソーシアム体制・役割



事業名:海の共創基盤～せとうちマリンプロムナード～ (代表者:ピージーシステム) (2/4)

■課題

- 大型船舶以外のリアルタイムな航行情報把握
- 海上構造物(移動するかき筏等)の位置把握(事故件数の多い瀬戸内海)
- データ利活用環境と事業モデルの明確化



人材不足により更なる増加懸念

■課題解決に資するAI/IoTサービス

- ディープラーニングによるカメラ映像からの船舶認識
- 耐環境センサー搭載とLTE-M通信によるかき筏、灯浮標等のスマート化
- スマホアプリによる安全航行支援
航路誘導、接近船舶警報
- 動的ジオフェンス技術を活用した、スマホによる航行、行動トラッキング

■スケジュール

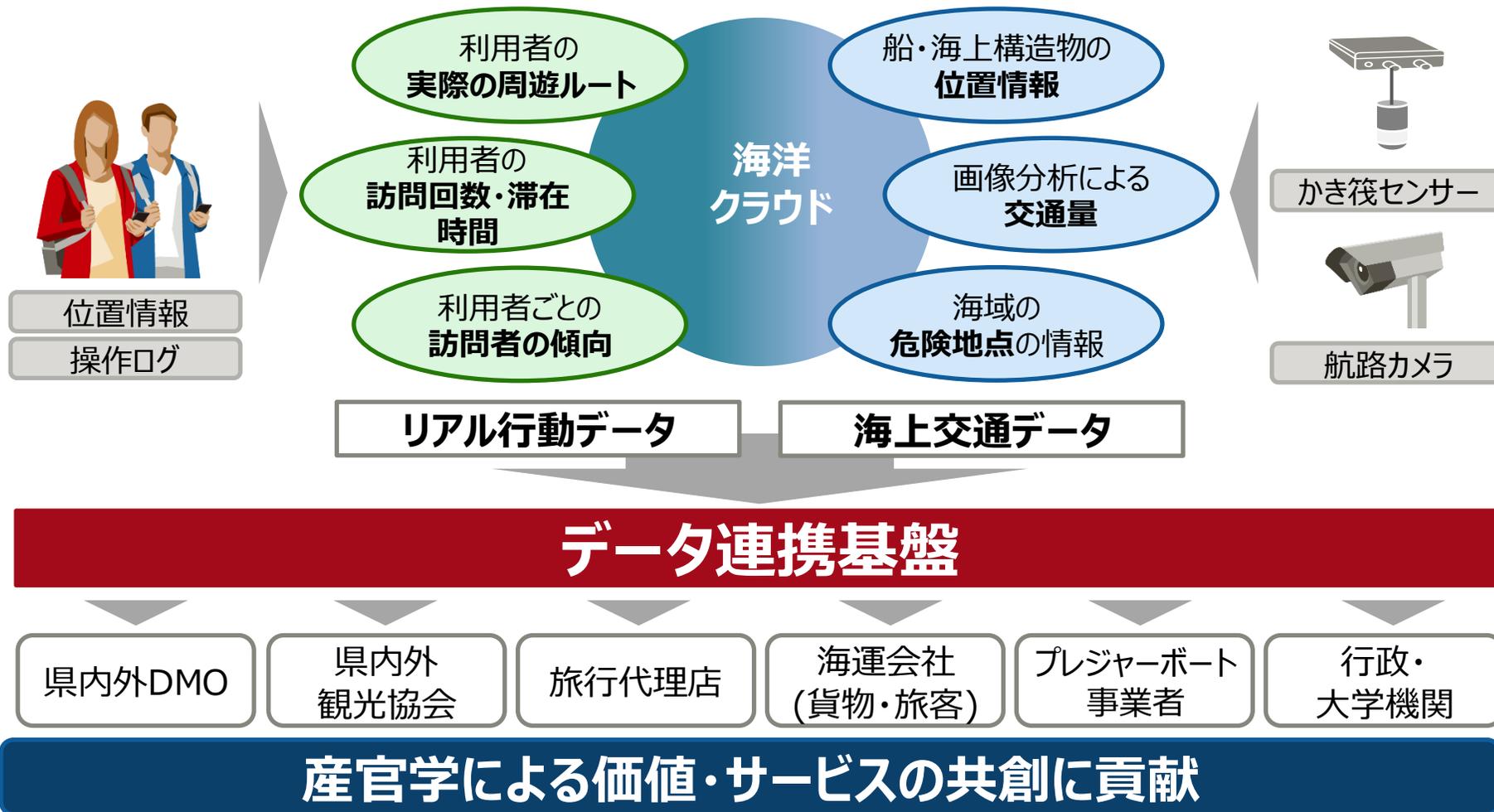
- STEP1(～2019年6月)
海洋クラウド(海洋版ダイナミックマップ)の構築
- STEP2(～2019年11月)
AIカメラとスマホの位置情報による安全航行実証
- STEP3(～2020年9月)
海上構造物(かき筏センサー、灯浮標センサー等)の位置把握によるサイバー空間での海の道実証
- STEP4(～2021年3月)
事業継続に向けた共創サービス開始、商用サービス準備

■実証成果目標

- 共創事業者:10者以上
- 商用化事業モデル:3つ以上

事業名:海の共創基盤～せとうちマリンプロムナード～ (代表者:ピージーシステム) (3/4)

■事業実施のアピールポイント等 ①



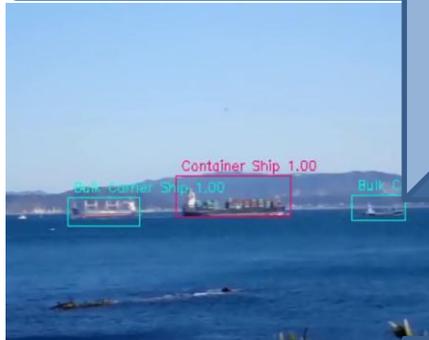
事業名:海の共創基盤～せとうちマリンプロムナード～ (代表者:ピージーシステム) (4/4)

■事業実施のアピールポイント等 ②

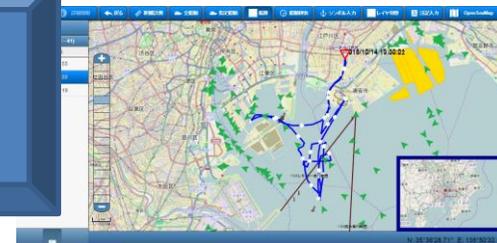
船舶認識AIカメラ

安全航行支援・センシングアプリ

光学カメラ撮影



事故0を目標に



赤外線カメラ撮影



将来的には自動航行へ

環境センサー

- 無電源、低電力
- 省電力通信 (LTE-M)
- 各種センサー取付可能 (塩分、PH、溶存酸素)

